

第3回レベルアップ研修会

平成26年8月21日（木）に栃木県立博物館にて、206名の参加で開催されました。

講話Ⅰ「こころの声と言葉になるとき～院内学級の子もたちが教えてくれたこと～」
講師 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島 賢和先生
昭和大学病院、院内学級（さいかち学級）の役割は、『子どもたちの発達を保障すること』である。



NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」 で取り上げられた副島先生

養護教諭も同じだなあと感じた言葉は、『受容はするが、許容はしない』受容とは、感情を受け止めることであり、許容とは、行動を容認すること。やりたくないこととやらないには距離がある。そして、最後に先生から「人のつらい感情を受け止めるには、自分の感情を大切にしたい」とエールをいただきました。

病気によって失われるものには、
安全感・自由・自主性・仲間・愛着形成・教育がある。

傷つきから回復するには、
Safety（安全・安心の確保）・Challenge（選択・挑戦）HOPE
（日常・将来の拡充）が必要になる。

教師の大切な4つのかかわりとして、
①本人の好きなこと、得意なことを探りその面につき合うようにする。
②活躍の場を与える。
③安心していただける場所を作る。
④不安や緊張や怒りや嫌悪など不快な感情を言葉で表現できるようにする。

講話Ⅱ「もう迷わない！超実践！校医が希望する保健室での応急処置対応のポイント」
講師 花見川中央クリニック院長 千葉大学医学部臨床教授 北垣 毅先生

養護教諭に望まれる臨床能力

- ①緊急疾患の現場対応・処置能力
- ②受診を勧める判断能力
- ③帰宅させていいかの判断能力
- ④受傷後の学校生活をどうするか判断する能力



腹痛の見極めは一番難しい

問診で8割が決まる。

確認すること（順番が大切）

- ①外傷の有無 → 子どもの意識度は低い
- ②月経歴、妊娠の有無 → 下腹部痛の時は必ず「100% 妊娠ってことないよね」と念をおす。

③消化器症状（吐血、下血など）

④痛みの発症、程度

→突然なのか、間欠か持続性か、痛みの程度、再発なのか、性状、痛くなる前の状況、放散性なのか、何をすると痛いのか、楽なのか。

⑤腹部以外の症状（食欲・体温・最後の食事・手術歴・生魚や肉の摂取）

健で「フィジカルアセスメントの”ホント”のところ」を連載されている北垣先生



みなさん真剣な表情で参加

☆月経痛は、お腹よりも背中（仙骨）を温める。

☆腹痛のあとおう吐したら、病院へ。
⇒ おう吐・下痢後の腹痛は、胃腸炎のことが多い。

☆虫垂炎は最初はみぞおちの痛みから下腹部に重い不快感
⇒ 時間とともに右下腹部へ移動する。

☆精巣捻転疑いあれば緊急搬送！
⇒ 発症から6時間が勝負。精巣を手で挙上すると痛みが増す。睾丸が大きくなる朝方に多い。

☆目の打撲は必ず医療機関を受診させる。

☆外傷はあくまで応急処置にとどめる。
⇒ 止血優先。傷口洗浄は医療機関で。湿潤療法は家庭や病院に相談する。